

研修のススメ

子ども理解を深めよりよくかかわるために



子どもとのかかわりにお悩みの皆さま
**「子どもの理解」を深める
 研修をしてみませんか**

「行動を見取る視点が拓がった」
 「行動の理由を考えるようになった」
 (「気付く」研修実施者の声より)

それは良さそう

だけど
どうやるの？



「何を学ぶ」
 「どのように学ぶ」を
 示しました

旧「特別支援教育に関する研修・体系表」

学びの道標

くわしくはWeb
 サイトのこちらから

福島県特別支援教育センター
 FUKUSHIMA Prefectural special needs education center

研修体系表

研修	個別ステップ (特別支援教育の理解)	気付きステップ (学びの理解)	気付きステップ (授業・学びづくり)	つなぐステップ (実践づくり)
ステップ4 (個別16時間)				
ステップ3 (個別11時間)				
ステップ2 (個別9時間)				
ステップ1 (個別7時間)				
研修項目	特別支援教育の理解 特別支援教育の意義 特別支援教育の目的 特別支援教育の理念 特別支援教育の役割 特別支援教育の現状 特別支援教育の課題 特別支援教育の展望	特別支援教育の理解 特別支援教育の意義 特別支援教育の目的 特別支援教育の理念 特別支援教育の役割 特別支援教育の現状 特別支援教育の課題 特別支援教育の展望	特別支援教育の理解 特別支援教育の意義 特別支援教育の目的 特別支援教育の理念 特別支援教育の役割 特別支援教育の現状 特別支援教育の課題 特別支援教育の展望	特別支援教育の理解 特別支援教育の意義 特別支援教育の目的 特別支援教育の理念 特別支援教育の役割 特別支援教育の現状 特別支援教育の課題 特別支援教育の展望

研修イメージ

研修イメージ「気付く」から始める研修の歩み

「気付く」ステップ (子ども理解)

「気付き」ステップ (授業・学びづくり)

「つなぐ」ステップ (実践づくり)

研修パッケージ

- 研修の手引
- 研修動画
- スライドワークシート

ひとりでも少人数でも、学校でも地域でも
 自分たちに合った方法で学べるよ

そうなんだー

やってみようかな

子どもとのかかわりも
 できるかも

【お問い合わせ】
 福島県特別支援教育センター
 郡山市富田町字上ノ台4番地の1
 電話 024-952-6497
 Webサイト <https://special-center.fcs.ed.jp/>

頑張る先生方を
 応援します!



1 研修のススメ

研修実施のきっかけとして使える漫画資料です。
「子ども理解を深め、より良くかかわるために特別支援教育の研修をしてみませんか。」

2 研修体系表(第2案)と研修イメージ

校長及び教員としての資質の向上に関する指標【第2版】(改訂版)に基づき、必要な研修項目を整理し、研修実施のイメージを図で示しています。

3 研修体系表改訂の歩み

本研究における研修体系表改訂の経緯をお伝えします。研修体系表(第2案)と研修イメージのかかわりも示します。

4 研修資料の使い方

「学びの道標」で示した各研修資料の位置づけと使い方を漫画資料で示しています。
「こうすればいいのか」「これならできそう」…各学校等のスタイルに合わせて活用してください。

5 各ステップの研修補足資料

「気付く」「支える」「つなぐ」ステップの研修の構成、研修によって期待できる姿を示しています。

6 各ステップの研修

「気付く」

「支える」

「つなぐ」

各ステップの研修は「研修実施の手引」「動画資料」「スライド資料」等で構成されています。順次追加・更新していく予定です。「知る」ステップの研修内容は、各ステップの研修項目として組み込まれています。

7 研修の進め方例

学校・地域の実態に合わせた「これならできそう」を見つけるために、本研究で協力校との実践を経た「研修の進め方」例を示しています。

みちしるべ
この「学びの道標」は、特別支援教育に関する研修企画・実施を充実させるために作成しました。
必要な資料にアクセスしてご活用ください。

特別支援教育に関する研修体系表(第2案)

福島県特別支援教育センター 令和7年2月27日

ステップ 指標	【知るステップ】 (特別支援教育の理解)	【気付くステップ】 (子ども理解)	【支えるステップ】 (授業・学級づくり)	【つなぐステップ】 (体制づくり)
ステップ4 (概ね16年～)				管理職の指導・助言の下、保護者や地域、関係機関と連携し、役割を明確にした校内支援体制の構築に主体的に関わっている。
ステップ3 (概ね11～15年)			特別支援教育コーディネーターや保護者及び地域、関係機関と連携し、個々の課題を解決するために、指導・支援の充実を図っている。	
ステップ2 (概ね6～10年)			個別の教育支援計画及び個別の指導計画を効果的に活用して、指導・支援の工夫・改善をしている。	
ステップ1 (概ね1～5年)		児童生徒の実態を把握し、一人一人の教育的ニーズを踏まえた授業づくりを行う等、きめ細かな指導・支援をしている。		
ステップ0 (採用時)	特別支援教育施策等の動向や、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の指導・支援の在り方について概ね理解している。			
研修項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共生社会の実現に向けて ○ 特別支援教育の動向 ○ 合理的配慮とは ○ 教育的ニーズとは ○ 個別の教育支援計画とは ○ 個別の指導計画とは ○ 障がい特性について ○ 教育相談と生徒指導 ○ 交流及び共同学習とは 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもを理解するため ○ 大切なこと ○ 行動の背景・要因 ○ 行動を分解する視点 ○ 必要な指導・支援 ○ 教育的ニーズの整理 ○ 個別の教育支援計画の作成 ○ 個別の指導計画の作成 ○ 教育相談の役割と在り方 ○ 校内組織活用に向けた理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個に応じた指導・支援の充実 ○ ユニバーサルデザインの視点を生かした授業・学級づくり ○ 生徒指導の役割と在り方 ○ 個別の教育支援計画の活用 ○ 個別の指導計画の活用 ○ 校内資源・組織の活用・連携 ○ 交流及び共同学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者・関係機関との連携 ○ 組織的に対応するための校内支援体制づくり

POINT !

・この研修体系表は、校長及び教員としての資質の向上に関する指標指標【第2版】に基づき、特別支援教育に関する専門性やキャリアに応じた資質を整理し、資質向上に必要な研修項目を示したものです。**自身のステージや子どもに対する指導・指導の観点から、柔軟に研修内容を選定してください。**
 ・別添「研修イメージ」は令和6年度調査研究の成果に基づき、研修体系表(第2案)を「気付く」ステップを軸とした学び方として整理したものです。
 ※研修体系表に示した研修項目以外の研修動画・資料等も Web サイトに掲載しています。自身のキャリア、ステージ、関心等に応じてご活用ください。

研修イメージ～「気付く」から始める研修の歩み～



つなぐ ステップ (体制づくり)

- この「研修イメージ」は、研修体系表（第2案）に示した研修内容を「気付く」ステップを軸とした学び方として整理したものです。
- 子どもを理解するための「気付く」ステップは、その後の「支える」「つなぐ」ステップの研修につながる、とても重要な研修内容です。研修の受講計画や研修の企画・立案にあたっては、まず「気付く」ステップの研修を実施し、子ども理解に必要な資質・能力を意識でききる状態で、次のステップに向かえるよう計画していきましょう。
- 研修を通して目指す姿や、それぞれの研修内容の詳細については、補足資料を参照してください。
- さらに学びたい場合は、本センターWeb サイトや専門研修を活用してください。

気付く ステップ (子ども理解)

実践的に学ぶ
(ケース会議等)

演習で深める
(定期的な研修)

**知識や考え方を
理解する**
(講義・動画による
研修)

○実際の事例で取組を実施「指導・支援を整理する」ためのケース会議の実施

○得た知識をもとに、仮想事例でのミニ研修等を行う
・背景・要因の推察
・行動の成立に必要な力
・指導・支援の整理

知る

○子どもの困難さを理解するために必要な知識を得る
①行動の背景・要因
②行動を分解する視点
③必要な指導・支援

支える ステップ (授業・学級づくり)

○実際の事例で取組を修正・改善（自己チェック、学年会、校内研修等）
・認め合う学級・学習集団づくり
・多様性のある集団での個別最適な学び(UD、個別の指導・支援)
※交流及び共同学習を含む
・事前検討、事後の評価と改善

○得た知識をもとに、仮想事例や自校の状況を踏まえたミニ研修等を行う
・指導環境のUDさがし・UDチェック(UDが配慮を必要とする子どもに有効か)
・実態を踏まえたUDと個別の配慮(合理的配慮含む)の整理
・個別の教育支援計画等の活用(教育的ニーズの共有)

知る

○多様性に配慮した集団での学びに必要な知識を得る
①みんなが分かりやすい授業(授業のUD(ユニバーサルデザイン))
②集団での学びに必要な個別の配慮
③教育的ニーズの整理(指導・支援の整理)

※「気付く」の理解をベースに

知る

○有効な手立てを引き継ぐための手続やポイントを理解する
①個別の教育支援計画の充実(教育的ニーズの整理)
②組織的な対応の基本
③学ぶ環境の変化への対応(学級外・他機関との調整)

※「気付く」「支える」の理解をベースに

特別支援学級の指導

- ・自立活動の指導
- ・個別の指導計画の作成・評価
- ・交流及び共同学習

※新任担当研修会等での研修

各ステップの研修資料等については、下のWeb サイトから順次公開していきます。
<https://special-center.fcs.ed.jp/>



〈研修体系表改訂の歩み〉

○ 試案(令和6年3月公開)

〈研修体系表(試案)の特徴〉

校長及び教員としての資質の向上に関する指標【第2版】(改訂版)で示されたステージと、子どものかかわり(指導・支援)の視点から必要な研修項目を整理しました。

「何から学んでよいか分からない」場合の参考になる。「子ども理解」は教育の土台であり、キャリアを問わず大切なのではないかな。



公開した試案にいただいた声

自身の特別支援教育に関するキャリアと指標のステージが合致しない場合が多い。



公開した試案にいただいた声

ステージ 指標	知るステップ (特別支援教育の理解)	気付くステップ (子ども理解)	支えるステップ (授業・学級づくり)	つなぐステップ (体制づくり)
ステージ4 (概ね16年~)				管理職の指導・助言の下、保護者や地域、関係機関と連携し、役割を明確にした校内支援体制の構築に主体的に関わっている。
ステージ3 (概ね11年~15年)			個別の教育支援計画及び個別の指導計画を効果的に活用して、指導・支援の充実を図っている。	
ステージ2 (概ね6~10年)			個別の教育支援計画及び個別の指導計画を効果的に活用して、指導・支援の充実を図っている。	
ステージ1 (概ね1~5年)		児童生活の場面に接し、一人一人の教育的ニーズを踏まえた指導づくりを行う等、きめ細かな指導・支援をしている。		
ステージ0 (採用時)	特別支援教育関係等の勉強会、特別支援教育的支援を必要とする児童生徒の指導・支援の在り方について概ね理解している。			
研修項目 (例)	<ul style="list-style-type: none"> ○共生社会の構築に向けて ○特別支援教育の重要性 ○福島県の特別支援教育 ○合理的配慮とは ○教育的ニーズとは ○個別の教育支援計画とは ○個別の指導計画とは ○障がいについて ○教育相談と生徒指導 ○交流及び共同学習とは 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもを理解するために大切なこと ○子どもの実態把握をする際に大切なこと ○教育的ニーズの整理 ○個別の教育支援計画の作成 ○個別の指導計画の作成 ○個別の指導計画の役割と在り方 ○校内組織活用に向けた理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心に応じた指導・支援の充実 ○ユニバーサルデザイン視点を生かした授業・学級づくり ○生徒指導の役割と在り方 ○個別の教育支援計画の活用 ○個別の指導計画の活用 ○校内資源・組織の活用・連携 ○交流及び共同学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者・関係機関との連携 ○組織的に対応するための校内支援体制づくり

○この研修体系表は、県の指標【第2版】に基づき、特別支援教育に関する専門性やキャリアに応じた資質を整理し、資質向上に必要な研修項目を示したものです。
 ○この体系表を運用することで、特別支援教育に関する専門性向上の道筋を教員自身が確認できます。
 ○なお、指標のステージだけでなく、指導・支援の視点(ステップ)から必要な研修項目を確認することもできます。

「学ぶ必要があること・学びたいこと」「自分の到達段階」が見て分かるようにしたい

○研修体系表(第2案)・研修イメージ(令和7年3月公開予定)

- ・(試案)に示した研修項目を、令和6年度実践研究の成果を受けて再整理し、第2案とします。
- ・(試案)の課題を受けて、研修実施のイメージを明確に示し、「見やすい」「分かりやすい」「取り組みやすい」補助資料を作成します。

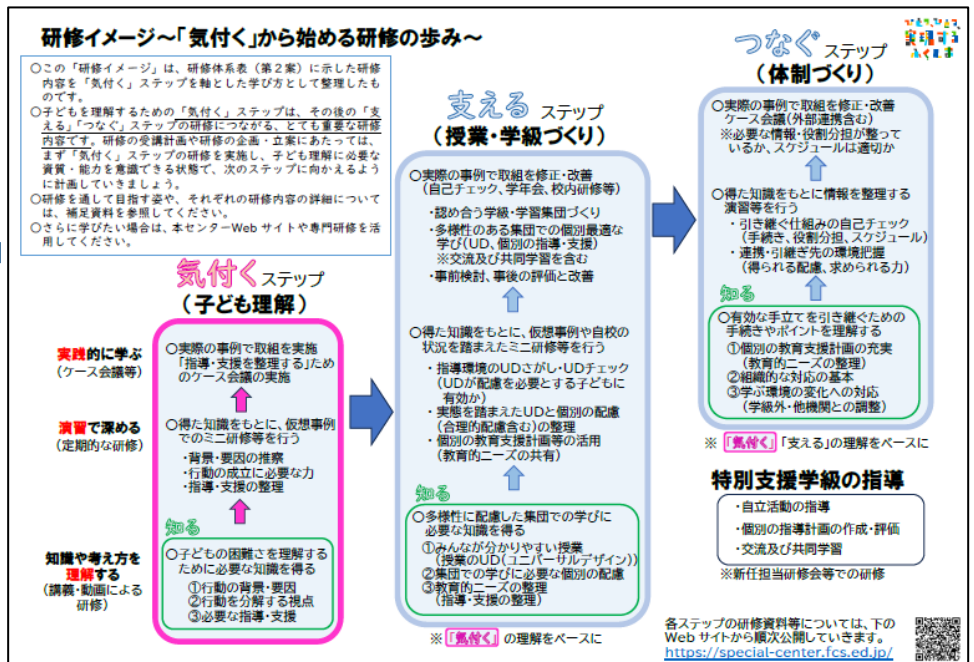
研修体系表(第2案)

ステージ	知るステップ (特別支援教育の理解)	気付くステップ (子ども理解)	支えるステップ (授業・学級づくり)	つなぐステップ (体制づくり)
ステージ4 (概ね16年~)				管理職の指導・助言の下、保護者や地域、関係機関と連携し、役割を明確にした校内支援体制の構築に主体的に関わっている。
ステージ3 (概ね11年~15年)			個別の教育支援計画及び個別の指導計画を効果的に活用して、指導・支援の充実を図っている。	
ステージ2 (概ね6~10年)			個別の教育支援計画及び個別の指導計画を効果的に活用して、指導・支援の充実を図っている。	
ステージ1 (概ね1~5年)		児童生活の場面に接し、一人一人の教育的ニーズを踏まえた指導づくりを行う等、きめ細かな指導・支援をしている。		
ステージ0 (採用時)	特別支援教育関係等の勉強会、特別支援教育的支援を必要とする児童生徒の指導・支援の在り方について概ね理解している。			

具体的で見やすい。これに基づいて研修を実施してみたい。



研究発表会参加者



第2案・研修イメージについても、活用した上での感想、ご意見をいただき、より良いものにしていきます。

研修資料の使い方

「これならできる」を
みつけよう

特別支援教育
研修・・・と
何かないかな...

特別支援教育センター
学びの道標

「気付く(子ども理解)
から始める研修がある
のか!!

ほほう

やってみたいけど
どうすればいいん
だろう

補足資料を
使ってみて

研修体系表

研修イメージ

補足資料

研修イメージ「気付く」から始める研修の学び〜

それぞれステップの研修について
補足資料で説明してあります。

補足資料

研修後の姿

研修の目的・キーワード

研修の目的	研修のキーワード	備考
知識を得る (動画あり)	①基本的な知識を得る ②行動の背景・要因 (15分 40分) ③必要な指導・支援 (15分 40分)	①基本情報、背景・要因 ②③動画あり、指導・支援
理解で深める	①「行動の背景・要因」の理解 - 基本知識①の動画を視聴しながら、背景・要因を自由に考えたり書き出したりする。	①動画、スライド資料 ②動画あり
実践的な内容	②「行動が成立するための必要な力」の理解 - 基本知識②の動画を視聴しながら、行動成立に必要な力について考える。 ③背景・要因から「指導・支援」の検討 - 基本知識③の動画を視聴しながら、指導・支援を整理するためのワークシートを使用する。	①動画、スライド資料 ②動画あり ③演習 (多岐目的学習のワークシート) 指導者の実践を支援する

研修者の声

この研修を通して、私は以下のような感想をいただきました。

※実際の研修内容は変更される場合がございます。また研修で考えることで私たちの実践や考え方も変わっていくものがあります。

※演習②「行動が成立するための必要な力」の理解
- 背景や要因などが思いつくまで待つことが大切です。講師の指導でも構いません。背景や要因が思いつくまで待つことが大切です。

※演習③「実践」が実現している、実践が実現しているという実践を支援する。

この研修の研修資料を共有する場合には、次のような方法があります。

①研修資料の共有 (動画、スライド資料) 共有 (YouTube、Google Drive)

②研修資料の共有 (動画、スライド資料) 共有 (YouTube、Google Drive)

③研修資料の共有 (動画、スライド資料) 共有 (YouTube、Google Drive)

研修パッケージ

研修の手引

研修動画

スライド
ワークシート

補足資料は各パッケージと
つながっています

研修パッケージは順次アップします

やってみまーす

補足資料に基づいて
進めたら研修が実施
できるんだ

詳しくは
特別支援教育センターWebサイトへ
がんばってね

Fin



気付くステップ テーマ 「 気付く(子ども理解) 」

研修後の姿

この研修を通して、先生方には子どもの「表面的な行動」に隠れた背景・要因に付き、困難さの理由を推察しながら、よりよい指導・支援を検討していくことができるようになることを目指しています。

※他のステップ（支える、つなぐ）の前に、本ステップを学んでください。

研修の目的・キーワード

段階	各研修の概要	備考
知識を得る (動画あり) 	○基本的な知識を得る ①行動の背景・要因 (18分40秒) ②行動を分解する視点 (17分40秒) ③必要な指導・支援 (15分40秒) ※視聴するだけでも効果はありますが、研修として視聴しながらワーク・対話的な協議を行う形でのご利用を推奨します。	キーワード ①冰山モデル、背景・要因 ②分析の視点 ③指導と支援
演習で深める 	(1)「行動の背景・要因」の推察 ・基本的知識①の動画を視聴しながら、背景・要因を適切に探るワークに取り組む	※動画、スライド資料、手引あり
	(2)「行動が成立するために必要な力」の分析 ・基本的知識②の動画を視聴しながら、行動をより細かく分析するワークに取り組む	※動画、スライド資料、手引あり
	(3)背景・要因から「指導・支援」の検討 ・基本的知識③の動画を視聴しながら、指導・支援を整理するためのワークに取り組む	※動画、スライド資料、手引あり
実践的な内容	○実態把握から指導・支援を考える ・演習①②③をもとに、把握した情報を整理し、気になる行動の背景・要因の推察や、できることを生かした指導・支援の整理を行う	※演習（各校の既存の会議やケース会議等での実施を想定）

研修者の声 受講した先生方から、以下のような感想をいただいています。

演習(1)「できないことをマイナス面で捉えがちだが、子ども目線で考えることで私たちの支援や関わりも変わってくるのだと実感しました。」
 演習(2)「部活動指導を考えると、確かに生徒の動き等を観察して指導してきたので、通常の生活でも観察していれば、原因や要因などが見えてくるのかと思いました。」
 演習(3)「特性があっても固定的に見ない。環境が違えば本人も別の行動を見せる。」

このテーマの研修受講を希望される場合には、次のような方法があります。

- ・ 各学校の校内研修で実施（推奨）
- ・ 研修支援を依頼（特別支援学校の地域支援センター、教育事務所、特別支援教育センター）
- ・ オンデマンドによる個人学習

教材のダウンロードは、福島県特別支援教育センターWebサイトの「学びの道標」ページから！

<https://special-center.fcs.ed.jp/>



支えるステップ テーマ 「 支える(授業・学級づくり) 」

研修後の姿

この研修を通して、先生方には授業におけるユニバーサルデザイン(UD)のよさに気づき、配慮を必要とする子どもの教育的ニーズ(指導・支援)と関連づけることができるようになることを目指しています。

※「支える」「つなぐ」ステップの前に、「気付く」ステップを学んでください。

研修の目的・キーワード

段階	各研修の概要	備考
知識を得る 	○基本的な知識を得る ①みんなが分かりやすい授業 ②集団の学びに必要な個別の配慮 ③教育的ニーズの整理 ※動画等のコンテンツはありません(R6 年度時点)	キーワード ①授業のユニバーサルデザイン ②想定されるつまずき ③教育的ニーズ、指導と支援の整理
演習で深める 	(1)UD さがし、UD チェック ・ 基本的知識①②を参考に、全体に行っている配慮(UD)の要素を見つけるワークを行う ・ 配慮を要する子どもを決め、UD の要素がその子にとって有効な支援となっているかを話し合う(UD チェック)ワークを行う	キーワード ・ ユニバーサルデザイン ・ 認知特性の違い ・ 全体への配慮
	(2)実態を踏まえた UD と個別の配慮 ・ 基本的知識①②③を参考に、複数の仮想事例においてUDの効果について検討するワークを行う(認知特性、情報処理等の違い) ・ UDで補えるか個別の配慮(合理的配慮含む)が必要かを整理するワークに取り組む	キーワード ・ 指導の有効性 ・ 特性に応じた指導・支援 ・ 想定されるつまずき
	(3)個別の教育支援計画等の活用 ・ 基本的知識①②③を参考に、集団の中で学ぶために必要な指導・支援を教育的ニーズとして整理し、個別の教育支援計画等にまとめるためのワークに取り組む	キーワード ・ 教育的ニーズ ・ 個別の教育支援計画 ・ 教師間の共有・連携
実践的な内容	○実際の事例で取組を修正・改善 ・ 演習をもとに、実際の教室環境や指導におけるUDの整理や、対象児のつまずきを想定した授業の事前検討、事後評価を行う	※演習(各校の既存の会議や授業研究会等での実施を想定)

このテーマの研修受講を希望される場合には、次のような方法があります。

- ・ 各学校の校内研修で実施(推奨)
- ・ 研修支援を依頼(特別支援学校の地域支援センター、教育事務所、特別支援教育センター)

教材のダウンロードは、福島県特別支援教育センターWebサイトの「学びの道標」ページから!

<https://special-center.fcs.ed.jp/>



つなぐステップ テーマ 「 つなぐ(体制づくり) 」

研修後の姿

この研修を通して、先生方には子どもの情報を適切に共有し、情報共有や指導・支援の評価・改善、引継ぎに役立てたり、校内外の連携・引継ぎのために既存の組織や仕組みを活用できるようになることを目指しています。

※「支える」「つなぐ」ステップの前に、「気付く」ステップを学んでください。

研修の目的・キーワード

段階	各研修の概要	備考
知識を得る 	○基本的な知識を得る ①個別の教育支援計画の充実 ②組織的な対応の基本 ③学ぶ環境の変化への対応 ※動画等のコンテンツはありません(R6 年度時点)	キーワード ①教育的ニーズ 指導・支援の見直し ②進学・就職先の情報 交流及び共同学習 ③情報の集約・共有 多職種の連携
演習で深める 	① 連携・引継ぎ先の環境把握 ・基本的知識①②を参考に、仮想事例で進学先・就職先・交流及び共同学習の対象学級で学ぶ際に共有・引継ぎする事項を整理するワークを行う ・実際の事例で同様に整理するワークを行う ② 引き継ぐ仕組みの自己チェック ・基本的知識②③を参考に、校内で共通ルールとして設定されている手続きや、引継ぎのための役割分担、スケジュール設定、外部との連携の流れ等を確認するワークに取り組む	キーワード ・教育的ニーズ ・必要な情報の整理 ・仮想事例→実際の事例 キーワード ・校内体制、スケジュールの確認 ・教育支援計画の活用 ・仮想事例
実践的な内容	○実際の事例で取組を修正・改善 ・演習をもとに、実際のケース会議等の場面で、連携や引継ぎを行う上で必要な情報や役割分担、スケジュール設定がなされているかを確認する	※演習（各校の既存の会議やケース会議等での実施を想定）

このテーマの研修受講を希望される場合には、次のような方法があります。

- ① 各学校の校内研修で実施（推奨）
- ② 研修支援を依頼（特別支援学校の地域支援センター、教育事務所、特別支援教育センター）

教材のダウンロードは、福島県特別支援教育センターWebサイトの「学びの道標」ページから！

<https://special-center.fcs.ed.jp/>

研修の進め方例

例：「気付く」研修を校内で実施する場合

「気付く」ステップ (子ども理解)

実践的に学ぶ
(ケース会議等)

演習で深める
(定期的な研修)

**知識や考え方を
理解する**
(講義・動画による
研修)

○実際の事例で取組を実施
「指導・支援を整理する」ための
ケース会議の実施

○得た知識をもとに、仮想事例
でのミニ研修等を行う
・背景・要因の推察
・行動の成立に必要な力
・指導・支援の整理

知る

○子どもの困難さを理解する
ために必要な知識を得る
①行動の背景・要因
②行動を分解する視点
③必要な指導・支援

モデル A

「気付く」ステップ①②③をすべて実施
※令和6年度研究協力校との実践モデル

- 第1回目 ①行動の背景・要因(動画)
背景・要因の推察(演習)
- 第2回目 ②行動を分解する視点(動画)
行動の成立に必要な力(演習)
- 第3回目 ③必要な指導・支援(動画)
指導・支援の整理(演習)

モデル B

「気付く」ステップ①②③をし、その知識や考え方に
基づき自校の事例でケース会議を実施

- 第1回目 ①行動の背景・要因(動画)
背景・要因の推察(演習)
- 第2回目 ②行動を分解する視点(動画)
行動の成立に必要な力(演習)
- 第3回目 ③必要な指導・支援(動画)
指導・支援の整理(演習)

モデル C

「気付く」ステップのうち、
ひとつにじっくり取り組む

- 第1～3回目 ①行動の背景・要因(動画)
背景・要因の推察(演習)
- ※ひとつひとつのコンテンツは単体で実施しても効果が
期待できます。

モデル D

「気付く」ステップを一度に時間をとって
まとめて実施

- 第1部 ①行動の背景・要因(動画)
背景・要因の推察(演習)
- 第2部 ②行動を分解する視点(動画)
行動の成立に必要な力(演習)
- 第3部 ③必要な指導・支援(動画)
指導・支援の整理(演習)

研修の持ち方に「こうあるべき」は
ありません。
先生方の、学校の「学びたい」に
合わせて「これならできる」を探り
ましょう。



お問い合わせ 福島県特別支援教育センター
郡山市富田町字上ノ台4番地の1
電話 024-952-6497 FAX 024-952-6599
Web サイト <http://special-center.fcs.ed.jp/>